

## 済生丸に乗って

### 瀬戸内海巡回診療体験研修に

行ってきました!!

レベルⅡ-1（3年目）を対象に「済生丸による瀬戸内海巡回診療体験研修」を行っています。松山沖の瀬戸内海に浮かぶ9つの島々に担当看護師に同行しています。

済生会中四国ブロックの特徴である巡回診療を経験することで、済生会という組織の活動に対する理解を深め、組織の一員であることの自覚と誇りを養うことを目的にしており、参加者からは、「島の人々と直接ふれあい貴重な体験だった」などの意見が聞かれます。



済生会の一員になれた  
ことを誇りに思います



#### 海を渡る済生丸

山村 恵美

1962(昭和 37)年から半世紀にわたり瀬戸内海の島々を中心に医療を提供し続けている済生丸です。当初は診療や治療が主でしたが、病気にならないように予防することを重視し徐々に検診を主体とした活動に移行していきました。

今回私は、2016年11月15日に安居島(あいじま)へスタッフ8名と同行させて頂きました。診療の内容は採血、尿検査、心電図、身長体重測定、血圧測定、腹囲測定、レントゲン撮影、医師による診察でした。

安居島は愛媛県と広島県との間の斎灘のほぼ中央に位置する島です。人口は30人にも満たず、診療所が島内にないため、検診に来られた方々は毎回利用しているという方が多く、この定期健診によってがんの早期発見に繋がったという方もいらっしゃいました。

『済生丸一世号』から始まり、現在の『済生丸100』は船内の医療設備が一段と充実され更に島の方々が安心、快適に利用できる診療船になっています。

済生丸が一人暮らしの方にとって少しでも交流の場となれたらうれしいです。

## H28 年度済生丸に乗船して ～島診療での学び～

菊川 八恵美

済生会創立 50 周年を契機として、昭和 37(1962)年から開始した済生丸による巡回診療(検診)は、国のへき地医療対策事業とも合致して、次第にその成果が広まってきました。

「島があるかぎり、そこに人が住むかぎり、われわれは行かなければならない」という考え方に基つき、各病院長の指揮のもと実施してきましたが、これは現在も変わっていません。

「医師に恵まれない地域に医療を」というのが、この事業の考え方であり、特に開始当初は、食糧事情が悪く地域産業も不況の時代であったため、栄養不足や過労が多く、手足の痛み、痺れ、腰、膝の変形等の訴えが多く投薬・注射で少しでも痛みを取り除く事に主力をおいていました。

のちに島に診療所が開設され本土への定期航路が整備されるにつれ、済生丸による医療の提供は、診療から検診へ重心が移っていきました。現在では、治療医学から予防医学へと変化し、検診の結果、要精密検査の検診受診者には本土の病院に紹介状を出すとともに、地元の保健師に検診結果を報告することで、島民の健康維持に役立ててもらっています。

また、阪神・淡路大震災時にも出港し支援を行いました。陸地では出来ないことが済生丸では展開されており、凄いなと思いました。

今回、私は初めて島診療に参加したのですが、「有り難い、来年も来てね。楽しみにしてるから」と多くの島民の方に言っていただき、こんなにも済生丸での巡回診療を楽しみに待っていたのだということを知り、本当に大切にしたい診療だと感じました。

## 済生丸の巡回診療を島の人々は楽しみに待っています！！

船内の様子です



検査技師さん



船内は  
揺れを感じず  
採血も  
ばっちり

バリアフリーの船内では診察はもちろんレントゲン撮影などもできます